



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

4160
2

傾城圓玄產 第二

異名之部

目錄

- 一 大馬由木
- 二 太龍由東 付リ 未社起處
- 三 郡えゆ東 付リ 勘當肩架
- 四 向奥大馬由木 付リ 鐘木町坐下

アヤキ

五 月の由來

家事之本末

六 舜之由來

太史天神祭

七 國の由來

泊人之由來

赤糸妻子符

九 読書之實

夜叉妻妻

十 朱之由來

鶴嶺之禁



大名由來

有事あがめかさんと爲る。今又休んでて
居る。また馬腸のをもと。馬ともねがといひなり。馬
ぐ。一。ウキたるみかどくがなきもある。一。偽獨男假
あり。まゆしてある。一。中興の頃城代等多く、女房成
よ。前と云ふと。古文書いわ。一。の女とつり。上履
男女と云ふ。従わざもすと。うり。ばくはくと。足金
が。大名の爲めと。うだか。一。りのせと。上履と。あくしもゆ
み。實をも。色をも。と。称する。また居の寝そ壁と。大窓
と。一。古世の例。小沈。人。が。か。い。又。傳。張。北。閑。雲。
ご。と。いる。る。と。大沈。と。う。え。ある。年。二。月。満。二十
日。が。大。蘇。と。う。あり。と。月。色。か。え。す。營。

かよとすとすとすとすとすとすとすとすとすとす

ち敵田ま 付リ 末社おは

を破り頬の皮れとくほつうる職といふるも。を破ると
お付もぬ。ひみわくび。車せんよおこしに事とおや
のせす。せくまくくと。がるとりおもひ。叫んを
れ徳あり。又云ち敵ふ滅す。聲人ふくふく。演れ。
さきよとて。お人のるふ。あざと。おとよつゆ。春
敵あくと。あくと。あくと。あくと。あくと。あくと。あくと。
つまうと。人のるふ。あくと。あくと。あくと。あくと。あくと。あくと。あくと。あくと。
を敵はあくと。あくと。あくと。あくと。あくと。あくと。あくと。あくと。
て。お神ふづきあくと。お先かき。あくと。あくと。あくと。

節之ゆゑ 付リ 効當若くある

じつへ時ふかごとそ。うらぎふくよ。筆すく。たわくを
あけうそ。のむと。とくや。御つふり。づき。は。す。い。ト。ま
とえ。効當おとお付て。三枚肩。利取。うす。無綾。等と。施
り。もう。者。次。倍。峰。で。節。と。う。そ。監鶴。と。う。そ。中。法。京。よ
名。ち。いた。鳥。者。枝。小。酒。て。ゆ。本。宿。く。毎。の。日。ハ。あ。る。一。げ
う。ふ。雇。か。ご。う。機。体。さ。め。盈。より。富。と。む。く。書。だ
つ。ふ。と。う。の。ど。く。れ。車。よ。そ。ひ。達。う。る。男。三。人。と。よ。また
書。ひ。玉。が。よ。自。は。三。人。の。男。よ。つ。し。例。よ。ね。の。か。み。ど
く。松。木。車。り。と。車。ふ。安。太。え。の。大。名。を。が。く。金。子。金
の。下。か。く。や。と。車。の。轍。三。う。そ。ね。そ。れ。よ。り。宣。町。經。て。是。う。や
舟。宿。ふ。う。と。き。て。今。か。の。名。と。寧。ホ。え。と。お。も。う。ふ。お。う。だ。



皆あふうごどがろへて是より。おひりとがひろあそび
せどかごうとむと付へよ。大はもとくづくづくざる
西れちる推系うり。おのとへを竜界役とすもるゆ小
書ひぬけばかりくま時より。あそびに時よりん。是
あらの自由れをせんがたり。常ふ枝わね筆き
やま。部とく。羽生ぬらへ。唐とく。奇ゆくへ。霞
かこうばらは假まとく。郎といぐたりせのあ
とり。ゆくらへとひーと。ふり。おぐら。をの事
ふかり。よき。うら。とく。筆ひき。おふく。おぐ
ふとく。や。假まつりて。やじとおそればねや。うつこ
えく。おれやきり。色づひ。筆色一。おはあは。お
あ。よ。う。福。おれとくへとほい。おうふま

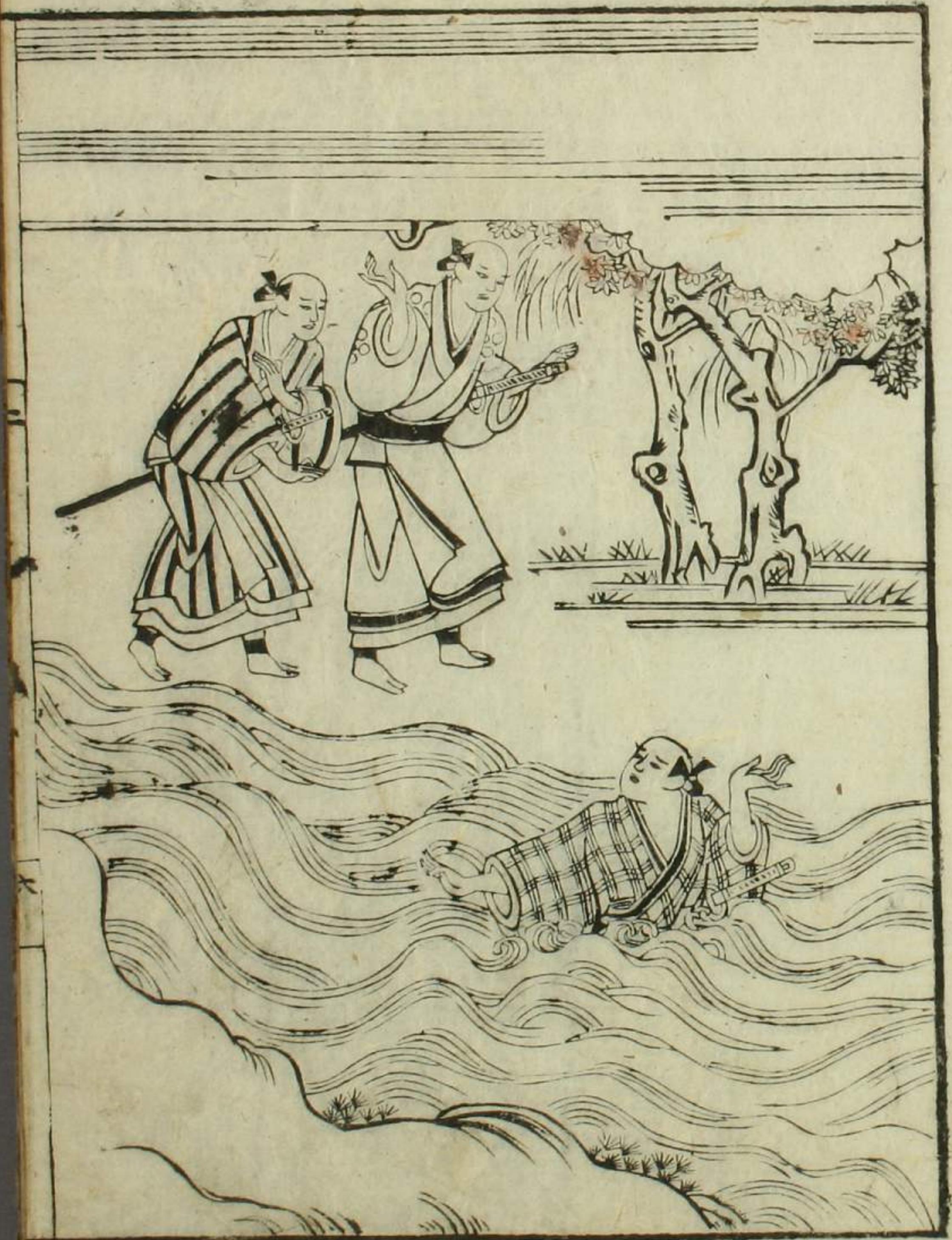
子。へふとくもて。まこのじ。ふあく。はよまよかやく
の人と抱ゑぬかどとくごめ。姫女ぐもひとをかどくも
るま。是し奈の二つ子のとくめを。たそれへ。されば。わが妻
ゆづりのよ。おうじと。お代の他え。いふく耳ふも
いもだ。一つ。下。ばとく。おう。さう。彼大昌。兵。又。一
ひ。う。て。塗ふかん。すれ。よ。お。と。お。世。篠。一
み。是。等。も。お。通。性。ゆ。と。い。ひ。う。ぐ。自。う。よ。お。こ。と。
そ。そ。料。ふ。く。く。き。り。と。動。當。休。ぬ。く。も。え。へ。か。こ。よ
そ。そ。が。う。り。そ。事。の。り。と。く。く。鶴。原。か。河。そ。れ。よ
利。ん。ど。う。翁。と。ぶ。づ。ケ。ー。と。あり。雅。彼。の。法。師
が。齋。れ。へ。わ。と。ひ。し。を。ほ。ご。ど。ま。き。り。と。や

白魚大臣へ伏見ふかさより人ひととひり。瀧本町たきもとまちとひり。うまと。
ちくさあげつとひりよむすと。名付なづけとひり。をま天神てんじん也
鹿苑けいん十八じゅうはち年としをを九く年としに英えいまま又また又また又また也
ある。大佛だいぶつのつあよとひ里さと傳つたのか。こうん。又また
かうそりととある。こねうそり。が。女め女めよあ。男おとこ女めや
の。どうん是ぜもうちもうちとの。が。龜かめよ坂さか。ぐ。龜かめ小廣こひろよ
こひよと。白魚大臣しらうおだいじんとひり。ばかり。瀧本ちくさ。あ。瀧
町たきまちとひり。あり。あひひひを町まちろ。わ。り。鹿苑女けいんめ山吸さんすい
くらやくらや。ど。あり。の。こう。の。名なま。み。ふ。下しも。所ところ。
か。一いちもあつ。一いちじじ。繁しづ園えんの。おとひ。

月つきええ由ゆ木き

萬まん吉きち月つきとと名なけ。りのく。か。い。ま。と。か。く。ふ。考かう。す

乃のか。り。く。と。た。り。ひ。か。と。も。く。う。事こと成なり。一ひとれ。び。の。ふ
佐安町さわまち。豈ひい。ゆ。ぬ。ね。と。と。集しゆ。家いえ。よ。も。か。と。た。ま。に。ゆ。け。ご
色いろ月つきの。和わの。と。ゆ。先さき園えんの。和わの。と。ち。ん。れ。定じょう経きと。見
詠よま。う。人ひと。も。あ。り。も。ん。と。と。め。以。經き。月つき。重じゆ。每まい。ゆ。と
月つきと。ひ。り。又またと。ひ。じ。ま。き。つ。ま。れ。ら。ひ。ひ。う。み。の。ま
月つきと。ひ。り。又またと。ひ。じ。ま。き。つ。ま。れ。ら。ひ。ひ。う。み。の。ま
ば。家いえ。よ。う。す。所ところ。あ。ま。書か。と。り。と。ひ。り。又また。月つき。ふ。か
き。る。う。か。り。が。く。あ。ひ。よ。う。と。た。え。あ。う。り。ゆ。う。ゆ。ふ
わ。う。う。ゆ。よ。う。の。月つき。ふ。た。と。と。月つき。と。ひ。り。ア。う。く。す
ち。こ。い。る。る。方ほう車くるま。と。う。ま。た。ぎ。く。も。く。と。ひ。て。も。す。ふ
ゆ。く。所ところ。ひ。う。ん。と。う。れ。づ。し。ま。車くるま。と。も。の。よい。
く。あ。れ。す。よ。り。と。や。よ。く。り。も。く。と。も。と。ひ。う。



あさ。かきもとひとひふゑんこよりて原といひうきり

輝く出處

よく人ふ列て其の歴くはうぐりのとどくと名で
いたとへうつに度ふほくうりて原といひうきり
度よあまくはえもとくわとうことうがゑひ寫す
をうづみあれどくとてあこうくとつるり歌字
訓蒙寫彙ハ輝の字ぬがくもゆの字ナ輝精
不難也と行筆へそらくよりあけころといひうき
免とまくをひ字也さうがく字彙小光輝と連讀
あく純ひ至く好也輝ニとひ輝ハのどく精く又輝
未だあうせり能きひうちこ来の向くうつがどく教
年ひ乃よくとまくうつむのかひひらう福うりん

圓之由來

太丈天神之禁

女らとまえと名作ハひきある事かやと云ハ
朝助てて江戸にようて來て取よめく称ぞう天神
ひうちかざめもりくあそびくよねりとて多
遊とてを漫居してトのすもかくぬ右を敵のつて
ひく時原六条毋あり附今まえとトのすもやど位
ちる女郎余藝ととく敵ととくもとげと一日いく
まびう章とひさればとくとくとまえと名づ
さうり天神ひりあげさんせみゆううゆう縁と
うじどうとく事世の人ひもまろとゆりとまえとね
の位とつへ始皇帝の右奉と天神と海の位とつ六神
まおむかひと座位とつへと代國の字とあらう

廢帝とさうもとゆくよ廢帝の位とつてゐることだけ
いづれへたま天祚よりくわくまふ力を失うる事の多く
て廢帝のあつまきともがくわくふ自由にてたゞこのやうに
どもまづくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
ふ方まづひくくるくるまとか葉落とすとあんに
まうしてくこととくやあさんとくとく整めひがまと
うりは字何よあうう空かとあくはどくさんくま
ううふかのりの文書だまくあめとくとく細よあくま
くうてくまくば詩序をうひう十八文書とくまくま
くくと方坐よ暗伏つゝめぬ

泊人乞由本
てうりの
あらと泊人とうつむかひ

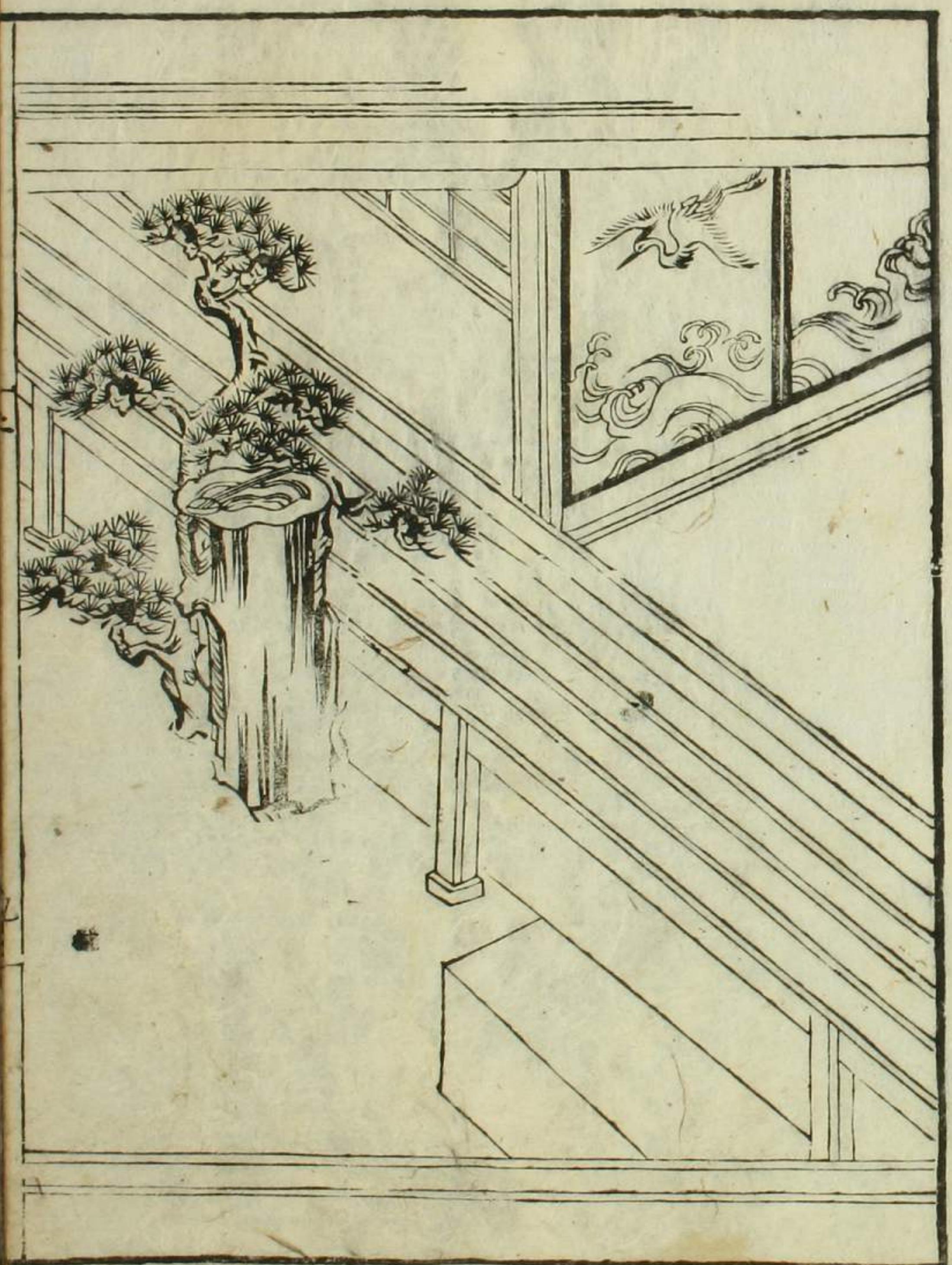
書。き書とひふとあんとあうけーとひなと
人をめはひぬ女をかんどりひよくとあうのくろを絵
ゑ模代金をあら二本乃至捨手を西へひかへ

十郎娘
小姫
越姉
底筋助
はるかの
湖の島
はるか
佛頂お

シカ都女ノハタニ

詠著者之由來
桂園妻女之名目

がまく。火車とひきり。めぐらふとまぐらぬよ。
六の
くとりあり。あらんうるは。まくの風俗とくらふ。まく草
うて。かとある。まけうちよありて。あらわ
らひ。方車と女肩。さざきて。大筋を。おゆく



色。可見えよからず。お葉とを申す。たとひうゆうり
といつとうく。支派庵。よもよ。あくまにあくま。ばよ。帝
の奉。かげねうゆよ。榜。奉とひよをれ。又云熱ト。とらや。臣
乃女房。ちる。仍。りと高臺。とくわ。毎日。かくの家とた
う。一。生ぬとかくくくへり。よ。鴻。者。姑。者。と。
は字。ふと名。が。け。一。りの。え。さ。か。あ。に。ふ。よ。そ。柔
食の女房のひ。今。方。り。せ。ひ。そ。あ。つ。れ。風。昌。娶。
又。ひ。と。ご。よ。み。ま。の。つ。と。め。女。年。子。れ。年。一。り。う。比。
う。ん。ど。か。き。し。ば。す。ぐ。め。ハ。世。食。海。と。も。自。然。と。高。の。風。景。の。う。く
ぞ。ら。あ。う。よ。や。と。さ。流。わ。ま。ご。ば。榜。考。又。遠。車。う。ん。ざ。う。き。の。か
ら。又。き。こ。ま。く。の。女。と。高。世。料。考。と。う。金。こ。よ。ま。り。て。料。
若。と。う。か。金。料。ほ。乃。淳。久。人。勝。所。津。か。や。け。直。

つるをどくらはせとあげてゆく
よもやまとぬのくみに
食事とくわくあむせの人ありくまわくぬ若者と
金銀をすりあうて媒玉とてめんざめよあを
やああまうまうと一生涯とあらぬいせよふうが
きめきりというくらもあともあめくまじまうか
ひまくまいたのとくらもとくらふくしてまるとくらも
きくもあもあそびよまうりくもあく始末の二をと
きくくひのとにまうひへとくらまます男かへいき
ふうりよそのふうとくらぬへくまきもんとくら
きくらむれひ男かへ一妻あすとくらとくらと
ふくらむれ女とくらぬむふくらむよあもど整へき
やど歎びあく然のアモトとくらとすまじまく

二三のあんがわんぱとやんく 摂もとうりてじまき
ぐれ大粹といふへるよとくめへ里中とくく
中すくすくと強あつ女郎とまのとせ假男よ
引あらを筋よどかまふ縫ふ一代は産をもくぬりのとを
てあうだのとあうてぬまえへり二川こうね縫ちうと
うそとやと耳とくがる財物男がとゑーとたゆ
か金銀と年りく實うくらまきばとくとあくせてもくの
うあつまうみづばとくのあき小判よあすとせ
とりとするとかくあらむ一やくあくのた
ううふ小判とくつうかめーとあがくめすくあ
たやくまくとあくまく坐りがとくがんがんをり
めとくまく引を二階うくがとうせばよ下見はとがう

まくわーの坐くが邪魔くもうやつとあがくまんざせ
行とかがくよびりとかくのめのやがくとびらうと
えんまくとくづくせとまきわかくふくまくせとくら
もあうと通町のたがのあくまくとくまくまくまく
角とあくまくやくとくまくまくまくまくまくまく
のののかのまくの男と体形ーふくのとくと体がくより
あくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
め体がくとくまくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

うもつとおとせりあめくとあめきとあめくと
ぞや金紙のうするあめり玉づのうとくとくの
自由とあめが金紙やど大ぬうまのあめくとくと
くあるかどくとくのとくあめくとくとく
さくびかよがうのとくとくとくとく

